

報告書名：歯周病予防事業のための地域診断と健康教育プログラムの実施・評価に関する研究

研究者名：森下真行<sup>1)</sup>，土田和範<sup>2)</sup>

所 属：<sup>1)</sup> 広島大学大学院医歯薬学総合研究科（予防歯科）

<sup>2)</sup> 竹原豊田歯科医師会

### 【 目的 】

広島県豊田郡安芸津町において歯周疾患の有病状況を把握するとともに、MIDORI モデルに基づいて歯科保健事業計画を策定することを目的として研究を行った。

### 【 対象と方法 】

25 歳から 54 歳までの全女性住民を対象とし質問紙調査を行った。町内歯科医師，在宅歯科衛生士，住民組織（保健福祉協力員，食生活改善推進員，母子保健推進員，母親クラブ），東広島地域保健所専門員，安芸津町福祉課（保健師，栄養士，係長）で構成されるワーキング・グループを立ち上げ，歯科保健事業計画の策定を行った。健康教育プログラムの策定は，MIDORI モデルの手順に従った。

### 【 結果 】

質問紙は 1,982 名分が回収された（回収率 78.2%）。歯周病の自覚症状を持つ人の割合は，年齢と共に高くなっていった。また，定期健診を受診している人では，保健行動が良好で，準備・強化・実現因子を満たしている人の割合も高かった。

定期健診受診率を 18%から 30%にあげること，歯肉出血を 56%から 30%に下げることが目標に定め，既存の事業の見直しと新規事業の立案を行った。その結果，母子歯科保健事業の中に母親向けのプログラムを入れること，マタニティスクールおよび育児相談の中に母親を対象とした歯科保健指導を導入すること，妊婦に対して歯科健診とブラッシング指導を実施することなどの健康教育プログラムが策定された。

### 【 考察 】

質問紙調査を年代別に分析した結果，若い世代から歯周病の予防対策が必要であることが明らかとなった。また，定期健診を受けている人とそうでない人の間で，教育組織診断（準備因子，強化因子，実現因子）に違いが認められた。従って，定期健診の受診率を上げるために，これらの 3 つの因子を考慮して健康教育プログラムを策定することが有効であると考えられた。しかし一方で，定期健診を実施している歯科医院が少なく，受け入れ体制が充分でないことが伺われた。今後は，一般開業医においてリコールによる定期健診を実践できるシステムを開発し，普及させることが必要であると考えられた。

健康教育プログラムの策定にあたっては，安芸津町の住民組織も含むワーキング・グループ会議を立ち上げ，事業を実施する当事者が参画してグループワークを行いながら計画作りを行った。その結果，異なる住民組織や職種の人達が連携して一つの事業に取り組むことができた。また，いずれのプログラムも教育組織診断で検討された準備因子，強化因子および実現因子を考慮して策定された。MIDORI モデルは成人歯科保健事業の策定，実施および評価を効果的に実施するために有効なモデルであり，さらに多くの地域で活用されることが望まれる。

安芸津町では策定された健康教育プログラムに基づき，現在，事業が展開されている。経過評価，影響評価さらに結果評価を行い，事業全体の評価を行う予定である。